

## 細菌汚染による血小板製剤の凝集物



船津 理恵<sup>1)</sup> 山本 裕士<sup>1)</sup> 岡田 英俊<sup>1)</sup> 中橋 祥隆<sup>1)</sup> 池田 和真<sup>2)</sup>  
本田 豊彦<sup>1)</sup> 土肥 博雄<sup>1)</sup>

- 1) 日本赤十字社中四国ブロック血液センター
- 2) 岡山県赤十字血液センター

キーワード：細菌汚染，血小板製剤，外観確認

採血後3日目の血小板製剤10単位を外観(色調，凝集物，スワーリング)に異常が無いことを確認し，医療機関へ供給した(9時47分)．医療機関輸血担当部門からの出庫時，製剤中に多数の凝集塊が発見された(10時13分)．当該製剤を引取りに行った時点で色調，スワーリングに異常なし(10時42分)．当該血小板製剤は調査のためブロック血液センターに返却され(16時)，色調，スワーリングには異常なく，pH 6.85，血小板数  $2.60 \times 10^{11}$  個/バッグであったが，同日実施した無菌試験(右上：変法チオグリコール酸培地，右下：ソ

イビーン・カゼイン・ダイジェスト培地) 1回目判定(培養3日目)から菌の発育(両培地にて綿状沈殿物，ソイビーン・カゼイン・ダイジェスト培地にて液面に菌塊様物質．いずれも右端は陰性対照)を認めた(写真は培養14日目，最終判定)．菌は *Staphylococcus aureus* と同定された．

日本赤十字社では2007年3月以後，全ての輸血用血液製剤で，保存前白血球除去と初流血除去を行っている<sup>1)</sup>．2007年4月～2013年3月の総供給本数は36,010,871本で，その間に輸血用血液製剤による細菌感染が7例

報告されている。輸血用血液製剤の安全性は向上しているが、輸血前の外観確認は最後の砦として重要である。

著者のCOI開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし

## 文 献

- 1) 南雲英人, 佐竹正博：輸血用血液製剤の細菌汚染の現状と対策. 日本輸血細胞治療学会誌, 60(1)：3—11, 2014.

## AGGREGATES IN BACTERIA-CONTAMINATED PLATELET CONCENTRATE

*Rie Funatsu*<sup>1)</sup>, *Yuji Yamamoto*<sup>1)</sup>, *Hidetoshi Okada*<sup>1)</sup>, *Yoshitaka Nakahashi*<sup>1)</sup>, *Kazuma Ikeda*<sup>2)</sup>,  
*Toyohiko Honda*<sup>1)</sup> and *Hiroo Dohy*<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>Japanese Red Cross Society Chushikoku Block Blood Center

<sup>2)</sup>Okayama Blood Center

### **Keywords:**

Bacterial contamination, Platelet concentrate, Visual inspection

---

©2016 The Japan Society of Transfusion Medicine and Cell Therapy

Journal Web Site: <http://yuketsu.jstmct.or.jp/>